

Think Globally! Challenge for your Career!

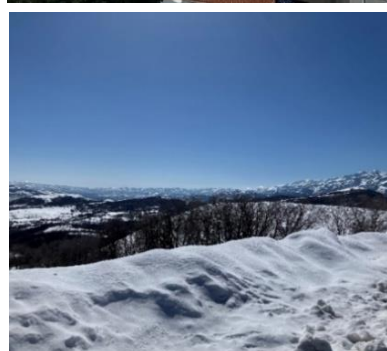
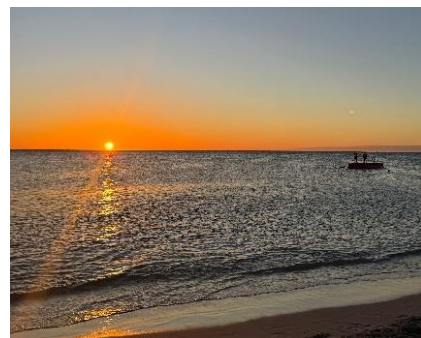
外国留学中間レポート



2025 SPRING 発行



留学中のみなさんから、中間レポートが届きました!



外国留学中間レポート 2025 SPRING

目次

イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校（アメリカ）	3
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年.....	3
ニューヨーク州立大学 バッファロー校（アメリカ）	4
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年.....	4
ピッツバーグ大学（アメリカ）	5
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年.....	5
ウィーバー州立大学（アメリカ）	6
経済学部経済学科 4年	6
ウィーバー州立大学（アメリカ）	7
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 4年.....	7
ウィーバー州立大学（アメリカ）	8
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年.....	8
リーズ大学（イギリス）	9
人文科学研究科英語英米文学専攻 2年	9
リーズ大学（イギリス）	10
経済学部経済学科 4年	10
マードック大学（オーストラリア）	12
文学部英語英米文学科 3年.....	12
イーデス・コーワン大学（オーストラリア）	13
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年.....	13

東義大学（韓国）	13
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 4年.....	13
東義大学（韓国）	12
経済学部経済学科 3年	15
慶熙大学（韓国）	
経営学部経営学科 3年	16
厦門大学（中国）	
文学部日本語日本文学科 4年	16
東海大学（台湾）	19
グローバル教養学環 2年	19

イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年5月



今日は3月の11日、寒い冬が終わり、だんだんと温かくなってきました。留学期間も早いもので終了まであと2か月程となりました。今回は私の留学の反省と、次にイリノイに留学する甲南生に向けたアドバイスを記したいと思います。反省すべきことが沢山あるので、自分の成長した点から紹介したいと思います。イリノイ大学に到着した日、土地勘もなく、英語を話さなければいけないという緊張に包まれながらバスを降りた私が、今

アメリカで普通に街を歩いて生活をし、友達も出来、旅行まで計画していることについて自分を褒めたいと思います。逆に一番反省すべき点は、せっかくの留学を私は活かしきれなかったことです。きっともっと学べたし、英語力もより高められたし、もっと沢山のひとと知り合えたのになと感じます。ここは私が留学生活で十分に取り組みえなかった点だと認識しこれからに活かしていきたいと思います。

イリノイ大学に来てわかった事は甲南との繋がりが他の日本の大学よりも深いということです。例えば地元の高校の授業を手伝った際に、甲南大学のマグネットが教室で使われていたり、友達が次の学期に甲南に留学することに決まったり、甲南とイリノイの交流を身近に感じる事がありました。ここからはイリノイでの留学生生活をより良いものにする為のアドバイスです。まず初めに留学準備編、正しい発音の練習を普段から少し意識してみましょう。日本人の英語だと授業で単語を理解して貰うのに5秒程かかってしまう時があります。次に文法のおさらいをしておくといいと感じました。本当に基本的なもので良いので英語で書かれた文法テキストを留学前に終わらせておくと、会話がスムーズにできると感じます。もちろん文法が間違っている場合でも伝わりますし、話すことが上達に向けて大切なことだと思います。留学生活編、イリノイの冬は寒いと言われています。友達の話だと濡れたタオルを500回ほど回すと凍るらしいです。防寒対策としてはスキー用の手袋。フード付きの温かいダウンジャケット、マフラー、ズボンも防寒の物があれば全く恐れるものではありません。治安については、たまに深夜に外へ出ますがキャンパス内は比較的安全といえるでしょう。シカゴからキャンパスまではバスで4時間、電車で3時間、車で2時間半程かかります。アメリカが車社会なのが理解できます。友人を作る事がキャンパスライフをより充実したものにする秘訣です。ぜひ留学を楽しんでください。きっと成長するチャンスが沢山あると思います。



ニューヨーク州立大学 バッファロー校（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年5月



2024年8月からアメリカのUniversity at Buffaloに留学し、約7ヶ月が経過しました。留学当初の目的は英語力の向上と異文化体験でしたが、現地のダンス部に所属することで、アメリカ人学生たちとより深い交流を経験することができています。

アメリカの大学では、部活動、特に運動部がとても活発で、私が参加したダンス部も例外ではなく、週に3～4回の練習がありますし、イベント前になると毎日練習日が設けられるので学業との両立が難しいと

感じることも少なくありません。ダンス部では、ヒップホップやガールズダンスなど多様なジャンルのダンスに性別問わず挑戦でき、約9ヶ国の異なる国籍を持った18名のメンバーと共に活動しています。最初は英語に苦労しましたが、メンバーたちが親切に教えてくれたおかげで、次第に馴染んでいくことができています。また、ダンスではチームワークが重要で、お互いに励まし合いながら練習することが多いのですが、その雰囲気がとても好きで、印象的でした。文化祭などの大きなイベントにも参加し、実際にメンバーとパフォーマンスを披露する機会があったことも貴重な経験となりました。

グループ活動をしていて一番楽しいのは言語交換で、学生間での会話はスラングが盛んになります。ダンス部のメンバーとは、休憩時間に英語だけでなく、スラングを教え合ってふざけ合うこともよくあり、私が日本語のスラングを紹介すると、彼らは面白がって真似をし、逆にアメリカのスラングを教えてくれ、それを私が使うと笑ってきます。彼らから教えてもらうことを信じるだけでなく、意味をしっかりと調べて理解しないといけないかもしれません(笑) 彼らがふざけているのは確かですが、教科書には載っていないリアルな英語を身につけることができ、私は大満足です。このようなカジュアルな会話を通じて、英語に対する抵抗感が減り、より自然にコミュニケーションが取れるようになりました。



このアメリカ留学を通じて、英語のスキルだけでなく、異文化の中での適応力や積極性の大切さを学びました。ダンスを通じて仲間と絆を深めることができたのは、言葉の壁を超えた貴重な経験でした。また、日本とアメリカの文化の違いを実際に体験することで、視野が広がり、自分の考え方にも変化が生まれました。アメリカでの留学は、自分自身を成長させる大きな機会となりました。特に、ダンス部での経験を通じて、新しいことにも恐れず挑戦する勇気や楽しさや、異文化の人々とコミュニケーションを取ることの面白さ

を実感しました。今後もこの経験を活かし、さらなる挑戦をしていきたいと思っています。

ピッツバーグ大学（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

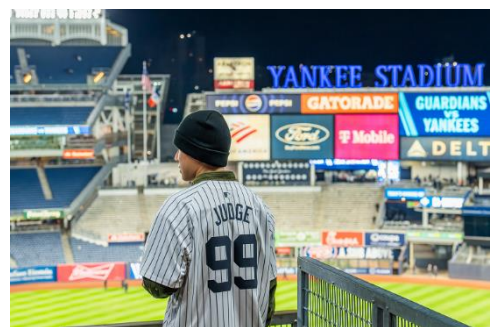
【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年4月



秋学期を終え、年を越し、ピッツバーグ大学での留学生活も残すところ2ヶ月を切りました。振り返ると、最初の頃は帰りたと思う日もありましたが、いつの間にか「帰りたくない」という気持ちが強くなり、帰国日が近づくにつれて寂しさが募るばかりです。春学期では、英語のクラスを取らず、International Relations, Societies, African-American and the Mass Media, そしてHistory of Jazzを受講しています。秋学期に比べて授業の難易度は格段に上がり、

レポート課題やテストも毎週必ず1つ以上はあります。しかし、どのクラスも興味深く、長い時間をかけてテスト勉強をすることも苦にならなくなりました。授業は、クラスごとに週2回のレクチャーと、1回のレシテーション(ディスカッション中心の講義)で構成されています。時折、予備知識の差からディスカッションについていけないこともあります。また、現地学生はロジカルシンキングやクリティカルシンキングの能力が非常に高く、机上の学習だけでは身につかない思考力も日々鍛えることができます。語学面では、留学が始まった当初は聞き取れず、会話についていけないことが多くありましたが、今では慣れて、比較的スムーズにコミュニケーションが取れるようになりました。

休暇では、ニューヨークへ2度行き、さらにスロベニア、イタリア、リヒテンシュタイン、そしてスイスを訪れました。また、今後は友人と共にシカゴとワシントンD.C.へ、4月には一人でロサンゼルスへ行く予定です。ヨーロッパ旅行は一人旅でしたが、その際にアメリカでは出会えないような様々な国のの人々と交流する機会があり、世界観や価値観が変わるほど充実した旅行になりました。所属している野球のクラブの活動では、ほぼ毎週末に他大学とリーグ戦があります。春休みには仲間と一日かけて車でフロリダ州のパナマシティビーチへ合宿に行き、今学期はウェストバージニア、フィラデルフィア、またデラウェアへの遠征も予定しています。そのため、今期の週末はピッツバーグで過ごすことはほとんど無く、現地学生でもなかなかできないような貴重な体験ができています。残りの日々は少ないですが、学業も私生活も何事にも最後まで全力に取り組み、悔いの残らない留学生活にしたいと考えています。



ウィーバー州立大学（アメリカ）

経済学部経済学科 4 年

【ダブルディグリープログラム】留学期間：2024 年 8 月～2026 年 4 月



ウィーバー州立大学に来て日本にいたころとは比べ物にならないほど寒さが感じられました。そして、その寒さは長い時間を掛けて消えていくため寒さが永遠に続いていると感じられました。たとえ厚着をしていても肌寒い風が衣服の隙間をかいくぐり侵入してきます。食堂が寮から少し離れたところにあるので、移動中に熱を奪われ、建物につくまでに身体は凍えてします。良かったことに2月に入り次第に

寒さは少しずつではありますが和らぎ始めました。これは、現地の方に聞いたところ異常気象で、今までここまで暖かくなったことはないそうです。しかし、それでも天候が悪いときは激しい雪が急に降る場合があるので油断できません。そのため、日常生活において特によく注意したいのが足場です。大雪が降ったあとの3日間は雪が解け始めている時なので非常に滑りやすいです。晩御飯を食べに行くときは寮から少し離れた場所まで夜道を歩いて行かないといけないうえ、濡れた道だと勘違いしてそのまま氷の上を滑ることがよくありました。靴も雪や水たまりでぐっしょりとなるため洗濯物が増えてがっかりするときもありましたが、同時に新しい友達ができるなど新しい出会いが日々の生活の中であるのでとても楽しいです。他にも、ユタ州では質の高い雪が降り積もるためウィンタースポーツの絶好のスポットであるのに加えて、夜空はとても美しかったと感じられたため嫌になることばかりではありませんでした。日本では町の光のためなかなか見られない星空、とくにオリオン座や他の星をここではくっきり見えたので感銘を受けました。



大学で学んでいる内容は日本とは違い経済学とは関係ない天文学、言語人類学、アカデミックライティング、アメリカ史とヨーロッパ地理学などを履修しています。そのため、高校生の頃に学んだ知識が実を結んだ形となっています。しかし、大講義室で受ける授業がないためグループワークやディカッションが毎回の授業で行われます。次の授業が始まるまでに本、ラジオ、動画、雑誌や新聞の内容などを読み議論をするためよく予習に時間をかけました。



祝日の文化の違いは、アメリカではサンクスギビング（感謝祭）が最大のイベントで、家族みんなが集まって人気のスポーツであるフットボールやバスケットボールを観戦して楽しく過ごします。

ウィーバー州立大学（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 4年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年4月



ウィーバー州立大学のあるユタ州の冬は非常に厳しく、気温は-10℃ほどまで下がりました。雪の積雪量も多く、足が埋まってしまうほどだったため、雪の日は非常に滑りやすく、注意が必要です。一方で、ウィンタースポーツが非常に盛んで、天然の雪の上で滑るスキーやスノーボードは格別に楽しかったです。3月に差し掛かると寒さも和らぎ、過ごしやすくなりそうです。

学習に関しては、前期と比較して、授業内での理解度が格段に向上したと感じています。しかし、正直なところ、まだまだ勉強が必要だとも思っています。私は授業の復習と、個人的な英語学習を続けてきましたが、知識が増えるほど、わからないことも増えていくような感覚があります。それが嬉しくもあり、大変でもあります。日本語なら簡単にできるスピーチも、英語になるとどこちなくなり、ネイティブスピーカーを相手にすると、さらに緊張して、用意した原稿すら忘れてしまうほどです。それでも、もし留学に来ていなかったら、これほど多くの改善点に気づけなかったと思います。大変ですが、これから英語学習を続けるうえで、新たな目標や指標を見つけられる環境にいられることが本当に嬉しいです。



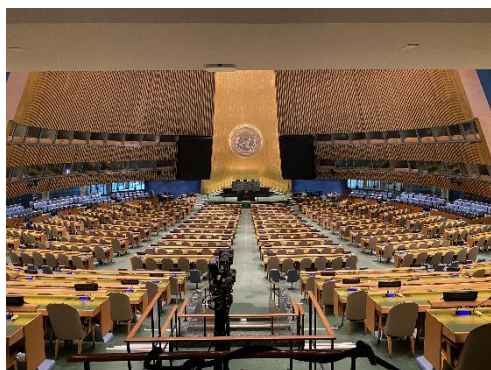
これまでの自分の達成として、毎朝英語の勉強を続けてこられたことがあります。決して長い時間ではなく、30分程度の短い時間ですが、それでも何カ月も継続できた自分を誇りに思います。そして、朝に学んだ表現が、日常会話の中で急に出てくることがあります。むしろ、今まではその表現に気づいていなかったのだと思います。単語や表現を少しずつ覚えていくという、地道な作業ですが、これが一番良い学習方法だと感じています。

ただ、表現を覚えても正しく発音できなければ、相手に聞き取ってもらえません。私の発音は曖昧になりがちで、実際に使ってみても伝わらないことがありました。私が受講しているパブリック・コミュニケーションの授業でも、「人に話を聞いてもらうためには、正しい発音が大切だ」と言われており、本当にその通りだと思いました。発音できない音やアクセントの違いに苦戦することありますが、これから少しずつ上達できるように頑張ります。

ウィーバー州立大学（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年4月



1年の留学期間も残すところ約2ヶ月になりました。あっという間に過ぎていく時間への驚きと、自分の成長に達成感を感じています。最初のころは寮生活や講義などに苦戦していましたが、周りの人に恵まれてアメリカでの生活を楽しんでいます。また、アメリカで作った友達との旅行やアクティビティは一生記憶に残る経験になりました。

留学に来てすぐのころと今の自分を比較すると、言語力と対応力が大きく成長したと感じます。アメリカに来て間もないころは、誰に話しかけられても簡単な質問しか理解できませんでした。しかし、授業でのディスカッション、友人やルームメイトと暮らした時間を経て今では多くの質問に対応できるようになりました。

勉強面では、秋学期でマーケティング3010、経済、経営、哲学の授業を受講しました。マーケティングの授業が非常に面白いと思ったため、春学期ではマーケティング3100というより専門的な授業を受講しています。マーケティング3100は消費者行動を学ぶ授業で、行動経済学に似ています。もっとも印象に残った授業は、「少しの変化」が人の心と行動を動かすうえで重要であるというものです。例えば、青信号にカウントダウンを付けると事故率が減るという研究で、信号を見た人の行動計画を操ることができます。他には、駅に電車の到着時間を表す電子掲示板を付けることで、電車を利用する人のストレスを軽減する効果があり、利用する人が増えます。このような日々の生活で焦点を合わせないようなところで効果があるということを学べたので、受講してよかったなと感じます。



交友関係では、友人が冬休みにニューヨークやワシントンDC、ボストン旅行に誘ってくれたため、国連ビルやタイムズスクエア、エンパイアステートビル等の様々なところを観光しました。建築様式や交通量の差、ニューヨークでの年越しも日本とは違って、歩いているだけでも楽しい旅行でした。

長いと思っていた約9か月の留学もいま終わりに近づいています。最後まで気を抜かず、1日1日を大切に過ごして「行ってよかった」と思えるような経験にします。

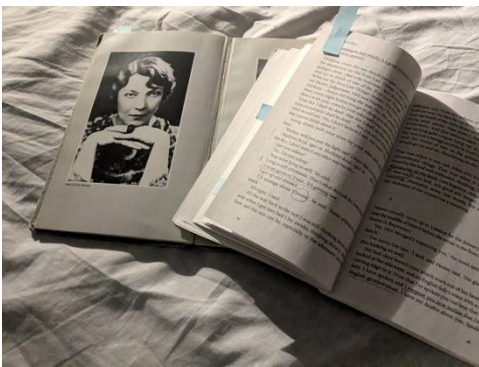
リーズ大学（イギリス）

人文科学研究科英語英米文学専攻 2 年

【交換留学】留学期間：2024 年 9 月～2025 年 6 月

イギリスに来て半年が過ぎようとしています。授業はもちろんですが、友人との会話の中で出てきた文化・宗教の違いや歴史とどのように生きているのか、などからもたくさん学ぶことができました。また、マイノリティーという立場に置かれ今までに感じたことのない「居心地の悪さ」を感じました。大変なこともあります、貴重な経験ができる毎日に感謝しながら過ごしています。

英語力はこの半年で劇的に伸びたか分かりませんが、自信を持って話せるようになりました。半年で最も成長したと感じるのは、英語を話している時に自分らしくいられるようになったことです。以前は英語を話しているとシャイになり、日本語の時とは全くの別人になっていました。授業中に友人が話を振ってくれても話すことに集中しすぎて真顔で質問に答えるなど、せっかくのパスを台無しにしまいました。しかし、ある中国から来た友人に出会って考え方が変わりました。彼女は英語力に自信がないと言っているのですが、いつも笑顔で話しておりコミュニケーションを取ろうという意欲がひしひしと伝わってきます。英語力はもちろん大切ですが、それだけでは相手に伝わらないこともあります。その人に出会ってから、英語を話すという目的から「伝える」ために話すという目的に考え方を考えることができました。



メインで履修している文学の授業に関してですが、各授業毎週 1 冊本を読み、ディスカッションテーマに沿ってクラスみんなで話し合いを進めていきます。授業についていくだけで大変ですが、授業では色々な意見を聞くことができとても楽しいです。日本との違いはたくさんあります。まず、みんな意見を発表することに何の躊躇もなく、我先にと手を挙げます。そしてクラスメイトの意見に反対することも普通で、その反対意見も受け入れられる環境です。毎回授業を受けたあと、そんな雰囲気は素敵だなと思います。自分が期待する英語力と実際の英語力にまだまだギャップを感じて悲しくなることも多いですが、残りの期間悔いのないように過ごしたいと思います。

最後にお気に入りの写真を載せておきます。左の 2 枚がブロンテ姉妹ゆかりの地 Haworth、右の写真が *Pride and Prejudice* の映画のロケ地で撮った写真です。



リーズ大学（イギリス）

経済学部経済学科 4 年

【交換留学】留学期間：2024 年 9 月～2025 年 6 月



去年の 9 月にリーズに来て以来、すでに 3 月になったのかと思うと時間が経過するのは早いと感じます。（実は、クリスマスの時期に昨年、一度日本に帰国していましたが）中間報告書を書くにあたって、何を書こうか模索していましたが、まず、こちらでの活動について書きたいと思います。前期から、リーズ大学のトライアスロンのセッションに参加するようになりました。1 週間のうち、月曜日と金曜日の朝、水曜日の夕方にプールのセッション、水曜日の昼過ぎにバイク、火曜日の夕方と土曜日の朝にランニングのセッションが

あります。（もちろん、全てに参加できている訳ではないです）加えて、後期から、リーズ大学の social league のあるサッカーのチームに参加しており、毎週月曜日の夜 19 時から 21 時まで練習があり、水曜日にはリーグ戦があります。また、中学の時から、テニスをしていることから、時間を見つけては、テニスの練習もしています。大学の授業に行きつつ、身体作りと健康のために基本的に 3 食全て自炊し、トレーニングもしていることから、たまに頭がパンクしそうな時があります。去年の 11 月に BUCS Duathlon と呼ばれるイギリス全土の大学の学生が参加する、ランニングとバイクの大会に出場しました。今まで、自転車を含めた、ランニングの大会に出たことは人生で無く、思いのほかきつかったですが、しっかりとゴールすることができました。しかしながら、結果に悔しさが残ることから、出来れば、5 月頃にあるトライアスロンの大会に出たいと考えています。イギリスに来てから、ほぼ毎日スポーツに打ち込むような生活をしていますが、本当に充実した毎日が過



ごせていると感じます。現地の学生と関わりながら、自分自身を様々な環境に置くことは、自分を大きく成長させることにつながると深く信じています。

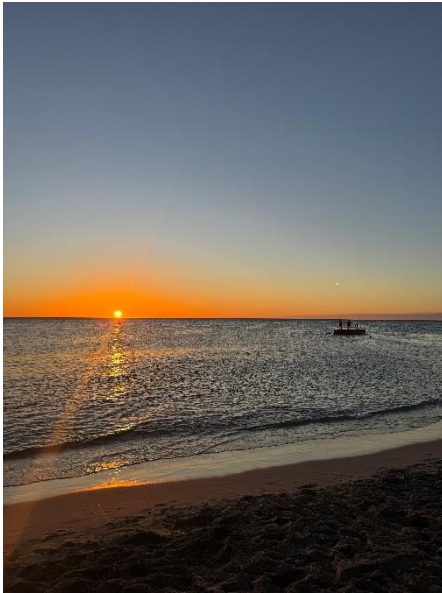
ロンドンからリーズへの夜行バスに乗っていた際に、運転手さんが車内アナウンスでこんなことを言いました、「私は、今日皆さんに会えてとても光栄です。私は、皆さんのことを詳しくは知りませんが、これから皆さんが歩んでいく人生において重要なのは、どこの生まれや年齢などは全く関係ありません、自分を信じ、前進し続け人生において何が重要か気付き、人生に何を見出すのか、それが重要です。辛いことや大変なことは幾度となく訪れますが、

決して恐れず、歩み続けて下さい。」自分が今、経験していること、それは、かけがえない経験と言えそうですが、僕は真の意味で今、自分が体感していることは、10 年後、30 年後と年齢を重ねた時に初めてわかるのではないかと考えています。まだまだ若い自分にとって、この留学経験が今後の人生においてどんな意義をもたらすかは、振り返った際に答え合わせをしてみなければわかりません。その人生の答え合わせを楽しみに残りの留學生活を思い切り過ごしていきたいと思います。

マードック大学（オーストラリア）

文学部英語英米文学科 3 年

【交換留学】留学期間：2025 年 2 月～2025 年 6 月

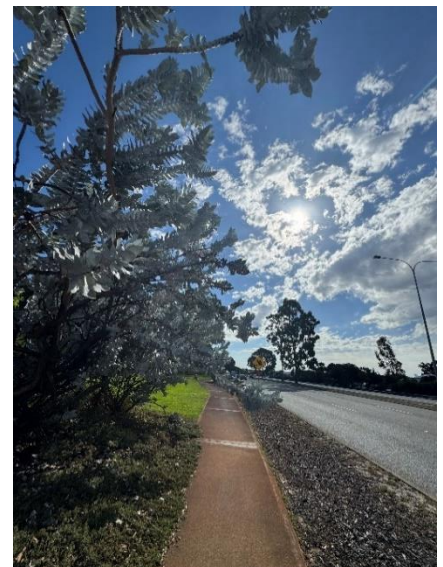


交換留学生としてオーストラリア・マードック大学にきて約二か月になります。初めての一人暮らしをオーストラリアで経験するとは想定外でしたが、この二か月で感じた一般的な生活の違い、そして学生生活の違いについて報告したいと思います。

前提として、オーストラリアは多民族国家であり、私たち学生はさまざまなバックグラウンドを持つ人と交流します。異なる文化や言語を尊重し合う風土があり、フレンドリーな雰囲気が見受けられました。そして学生たちは自分のスタイルを楽しむことが多く、他人の服装に対して批判することなく、個性を尊重する文化が根付いており、日本の同調圧力的な考えや、他人と違うことを避ける一面とは大きく異なると感じました。

オーストラリアの授業は主にレクチャーとチュートリアルに分かれ、レクチャーでは教授が主に講義を行い、チュートリアルでは学生同士のディスカッションが中心となります。しかしながら私の授業はレクチャーの代わりに、オンラインでの授業動画の閲覧とそのフィードバックが必要になります。その為授業自体はチュートリアル・ワークショップからになるので、オンラインで学んだ内容を実践、ディスカッションできるように前もって準備をする必要があります。そのような点では日本の大学と比べて、自主的な学習が求められると考えます。他にも日本では週におよそ 10 種類の授業が求められますが、オーストラリアの大学では基本週に 3 種類、多い人で 4、5 種類と、比較的少なく見受けられますが、実際は一つの授業で、4 時間の授業、課題やフィードバックを含めると、週に約 8 時間の学習が求められます。そのような点が日本とオーストラリアの教育システムの違いだと考えられました。

一般的なオーストラリア人の特徴は、全員がワークライフバランスに重きを置いていて、平日でも夕方からはプライベートの時間を確保できていて、特に週末はスーパーマーケットなども早い時間帯に閉まることが多いです。学生の主なプライベートの時間の使い方は、ビーチや公園に行ったり、カフェに行くなど、基本的にアウトドアアクティビティが多いです。



イーデス・コーワン大学（オーストラリア）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【語学プラス交換留学】留学期間：2024年10月～2025年7月

私の留学は「絶望」から始まった。オーストラリアに滞在し3ヶ月以上の教育を受けるために必要な「学生ビザ」が出発予定日に間に合わなかったのだ。もとはといえば、大学からの忠告を楽観視していた私の責任である。結果的には、新たに英語資格であるIELTSのスコアを取得し、予定していた語学プログラムからクラスのレベルを一つ上げ、開始日を遅らせることでの受け入れが許可された。この経験で自分の未熟さを痛感するとともに私の留学は様々な人の支えがあってこそだと身にしみて感じた。



波乱の幕開けとなった私の留学だが、始まると順調だった。語学プラス交換留学なので前半は語学学校に通った。授業は大学進学を前提にカリキュラムが組まれており、論文を要約したりプレゼンを行ったりした。しかし、友達との会話はそれ以上に私の弱点であるスピーキング力を伸ばしてくれた。一人はブルネイ出身のK-POP、アニメオタクのシャミだ。オタクと言ってもお世辞抜きに爽やかなイケメンである。もう一人はバングラデシュ出身のファハドである。彼は

他のバングラデシュ人とは一線を画しており、積極的に英語を使って話しかけてくる。2人との休み時間は英語を話す絶好の機会だった。特にシャミとは週末に外出するなど充実した生活を送ることができた。

無事に語学学校を卒業し、大学生活が始まった。いわゆる交換留学の部分である。とはいえ、この報告書を作成している今現在はまだ始まったばかりである。履修登録は全て自分であることができる。私はマーケティングやデータ分析の授業を履修した。食らいつくことに必死で言葉の壁を感じることも多々あるがやりがいもまた感じる。学外では念願のホッケー部に所属することが叶った。しかし今の英語力ではネイティブ同士の会話のリズムに乗ることが難しい。授業、部活動そして寮生活においてこれは解決すべき最重要課題である。



最後になったが、私が留学先にオーストラリアを決めた理由は地球の南側に行ってみたかったからである。そして、特にパースに来た理由は、世界一美しいと言われている街に行ってみたかったからである。世界一とはいき過ぎではないだろうかと思うこともあるが、自然豊かで多様な人々が融合するこの都市は魅力的だ。そして、もしパースに来ることがあるなら世界一幸せな動物といわれるクオッカに癒やされることは間違いない。

東義大学（韓国）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 4年

【交換留学】留学期間：2025年2月～2025年6月

新学期がスタートして1ヶ月が経ちました。韓国での生活も半年を過ぎようとしている段階で、前学期にはなかった「慣れ」を感じています。韓国での生活に慣れてきたことで、何をするにも緊張していた今までとは違い、心に余裕を持って生活ができています。そして心に余裕ができたことにより、韓国語を吸収するスピードもはよくなっていると思います。しかし、「慣れ」が生まれたことが全ていいことだと思えていないのが現状で、残り3ヶ月の留学生生活を慣れてしまったこの環境でどう過ごすのかを考えなければならないと感じています。

前学期と違う点としては、前学期は語学堂で外国人留学生と韓国語を学んでいたのに対し、今学期は現地の韓国人学生に混ざり専攻の授業を受けているという点です。私は前学期に週に1回のペースで、友人に日本語を教えていたのですが、その経験から日本語に興味を持ち始め、今学期は日本語学科の授業2つに参加しています。日本人は感覚的に日本語を話していますが、外国人目線で日本語を学ぶと、日本人でも説明ができない部分がたくさんあり、難しいなと思う反面、日本語の面白さも感じています。日本語と韓国語は似ている部分が多くあります。漢字から派生した言語であること、そして語順も同じであることなどがありますが、二つの言語を学びながら違う点も見えてきて、その違う部分に文化や国民性が表れているのも面白い点だと思います。日本語を勉強しながら、韓国語の勉強にもなり、言語という視点から両国の文化も知れて、専攻授業に満足しています。

もう一つ前学期と違う点として、今学期は「桜祭り」と言われる、各学部や学生会、サークルを紹介する行事が行われました。その行事はただ紹介するだけではなく、学部やサークルごとに準備したステージもあり、クライマックスには韓国で有名なアーティストが登場して大盛り上がりでした。とても韓国の大学らしい行事で新鮮でいい思い出になりました。



5月には学園祭もあると聞いたのでとても楽しみです。韓国は3月から新学期が始まり、いつもとは違う桜が咲く前からのスタートとなりましたが、一味違う春を楽しんでいます。残りの3ヶ月も噛み締めながら、色々なことに興味を持って挑戦していけたらと思います。

東義大学（韓国）

経済学部経済学科 3年

【交換留学】留学期間：2025年2月～2025年6月

2月末から留学生活が始まり、すでに1か月が経ちました。韓国での生活にもだいぶ慣れ、充実した日々を送っています。最初は、韓国の生活に慣れることに専念していましたが、素敵な出会いがたくさんあり、友達や先輩に恵まれて順調に生活しています。韓国は日本と距離が近く、文化も似ているため、生活面ではあまり困ることはありませんでした。しかし、韓国語のクラスでは、中国、台湾、カザフスタンなど様々な国から来た学生がいるため、初めは文化の違いに驚くこともありました。それでも、今ではその違いが新鮮で面白く、もっと多くの国について知りたいと思うようになりました。



また、韓国に留学していることで、韓国語を学ぶだけでなく、様々なことに気づくことができる非常にいい経験をしています。同じ言語を学ぶ仲間との交流や異文化理解など、多くのことを学び、非常に貴重な時間を過ごしています。さらに、韓国語の学習面では、釜山という方言がある地域に留学しているため、普段の会話が少し難しく感じることもあります。しかし、方言も一つの文化として学んでいければいいなと思っています。



韓国語の授業では、留学生として、毎日9時から12時40分まで韓国語の授業があり、私はそれに加えて午後の韓国語の授業1つと、韓国の学生と一緒に受ける授業も1つ取っています。韓国の学生と受ける授業ではグループワークがあり、韓国人のリアルな会話のテンポについていくことがとても難しいですが、私の拙い韓国語にも親身になって耳を傾けてくれるので、非常に感謝しています。また、国際交流のサークルにも参加し、韓国の学生たちと会話をする機会が増えました。自分の韓国語の未熟さに焦りを感じつつも、もっと韓国語でいろいろな話をしたいというモチベーションにもつながっています。残りの3か月という限られた時間を無駄にせず、毎日勉強に励み、充実した学生生活を送りたいと思います。

慶熙大学（韓国）

経営学部経営学科 3年

【交換留学】留学期間：2025年2月～2025年6月



平日は授業に出席しており、現在欠席・遅刻は一度もありません。学び続けてきた韓国語は上級レベルなので韓国語の授業は履修しておらず、経営学部で開講されている専門科目を履修しています。特に「意思決定分析」の授業では、人間の行動や思考のパターン、脳の反応などをビジネス的観点から分析し、理論と実例を交えて学習しています。韓国語で複雑な概念を理解し、自分の考えを論理的に説明することには難しさもありますが、それだけに得られる学びも深いです。

金曜日には2コマ連続（各2時間45分）の授業があり、「経営セミナー」では韓国学生とチームを組み、議論を通して経営課題に向き合っています。授業中は完全に韓国語の環境で、日本語で会話する機会が全くなく、日常的に韓国語を使う場が自然と生まれています。そしてもう一つの授業「広告論」では、大人数の前で一人で韓国語によるプレゼンテーション発表を行うという、自分にとって大きな挑戦に取り組みました。専門用語を交えたプレゼンは決して簡単ではありませんでしたが、それを乗り越えた経験は大きな自信へとつながりました。現在は広告マーケティングへの興味が強く、日本とは異なる韓国独自の視点を学ぶことが、非常に刺激的です。将来的には、こうした経験を活かして国際的なフィールドで活躍したいと思えるほどです。また、韓国の社会的空気にも日々触れています。大統領を巡る政治的問題に対するデモを実際に目の当たりにし、賛成派・反対派それぞれが真剣に声を上げている様子から、メディアでは伝わらない“現場のリアル”を感じました。若者が政治に強く関心を持ち、行動している姿はとても印象的で、歴史的な局面に立ち会っているような実感を覚えました。課外活動としては、大学のダンスクラブにも所属しており、夏に行われる学園祭のステージに出演するためのオーディションを受け、合格しました。現在は学業の合間に練習にも取り組んでおり、運動を通してリフレッシュしながら、充実した日々を送っています。



友人関係も広がり、韓国人の学生と深く交流できただけでなく、他国から来た留学生とも関わり英語を話す機会が多く、多様な価値観に触れています。

自由で活発な文化に圧倒されることや、辛いものの多さに驚くこともあります。日本にいる家族や友人と連絡を取り合いながら、自分らしくバランスをとることができています。

4月の中間テストに向けては現在、日々の授業内容を復習しながら真剣に勉強に取り組んでいます。学内の食堂のご飯はとても美味しく、日々の生活の小さな楽しみにもなっています。この留学を通して得られるすべての経験を、自分の今後の成長に確実に繋げていきたいと考えております。

厦門大学（中国）

文学部日本語日本文学科 4年

【交換留学】留学期間：2025年2月～2025年6月



中国に来て3か月が経ちました。短い期間ではありますが、思った以上に濃密な毎日を送っています。最初の頃は自分の中国語に自信が持てず、英語が話せる留学生に頼ってばかりでした。授業が始まった当初も先生の言っていることが30%ほどしか理解できず、大きなショックを受けました。授業開始から2週間はトライアル期間となっており、自分に合ったレベルのクラスを選ぶことができます。私は下から2番目のクラスにいました

が、漢字が読めるという点で他の留学生より有利だと感じ、一つ上のクラスを目指しました。しかし、甲南大学での授業は読み書きが中心だったため、リスニングとスピーキングに不安がありました。それでも「数週間すれば聞き取れるようになるから、上のクラスに挑戦したほうが良い」と周囲に励まされ、思い切ってクラスを変更しました。最初は先生の話を理解するのに苦労しましたが、徐々に聞き取れるようになり、積極的に授業に参加できるようになりました。今ではクラスメートとも仲良くなり、楽しく学んでいます。今学期は他大学から来た日本人留学生も多く、普段は日本語で話すことが多いですが、中国語の練習のため時々中国語で会話をするようにしています。お互いに助け合いながらも、甘えすぎないよう心がけています。

生活面で特に便利だと感じているのがデリバリーサービスです。キャンパス内には「快递中心」と呼ばれる荷物受け取り専用の建物があり、アプリで注文した生活用品や衣類などをバーコードで簡単に受け取ることができます。寮生活には非常に便利です。また、中国ではスマホ決済（Alipay や WechatPay）が主流で、現金を使うことはほとんどありません。一方、現地の学生との交流は思ったほど多くありません。たまに英語を練習したい中国人学生が声をかけてくれることはありますが、友達になるのは意外と難しいと感じます。そこで、私はキャンパス内で開かれているダンスレッスンに参加することにしました。甲南大学でもダンスサークルに所属していたため、大好きなダンスを通して友達を作ろうと思ったのです。レッスンは静かな雰囲気です。



話しかけづらさもありますが、先生（学生）とは連絡先を交換できるほど仲良くなれました。今後はもっと勇気を出して他の学生にも話しかけてみたいと思っています。週末（金曜から日曜）は授業がないため、よく出かけています。私が暮らしている翔安キャンパスは大陸側にありますが、よく本キャンパス（思明キャンパス）がある島に遊びに出かけています。大型のデパートが多く建っており、買い物や食事にぴったりの場所です。買い物を通じて中国語を使う良い機会にもなっています。中国での生活は、語学力だけでなく、自立心や適応力も大きく成長させてくれました。最初は不安も多くありましたが、今では自分の力で行動できる場面が増え、自信にもつながっています。残りの留学期間も積極的に中国語を使い、現地の文化や人々との交流を更に深めていきたいと考えています。

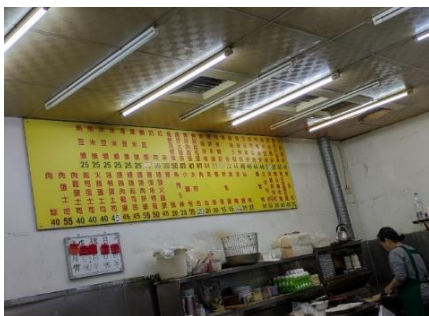
東海大学（台湾）

グローバル教養学環 2 年

【交換留学】留学期間：2025 年 2 月～2026 年 1 月

小学校のころ、中国語を学習していた母に 3 度台湾旅行へ連れて行ってもらった経験があり、台湾には馴染みがあります。旅行中に触れた伝統文化や人柄、食事等、台湾のあらゆるものに惹かれ、大学に入学して長期で台湾に留学できることを知り即決しました。また、私は小学校のころに見たテレビ番組の影響から台湾の伝統人形劇「布袋劇」に興味があります。何度か観劇した日本の人形劇である「文楽」との比較をしたいとも考えました。

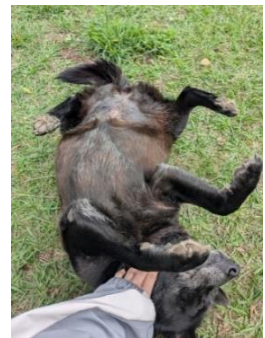
到着後、まずぶつかった壁が履修登録です。交換留学なので正規生と同じように履修登録を行う義務があるのですが、そのシステムが日本と比べてややこしかったです。My KONAN のような関係者専用サイトにログインし、無数にある授業の中から自分が受けたいものをピックアップします。そのページを印刷し、印刷した紙に担当教員からサインを貰い、その紙を大学のオフィスに提出するという 5 ステップを経て完了です。漢字の授業名は、見るだけでどんな授業なのかなんとなく理解できるので早々に漢字使用者の特権を感じました（これは日々感じます）。授業は日本のように 1 コマ 1 時間半、5 時間目までと決まっていません。50 分の授業もあれば 3 時間の授業もあり、柔軟に時間割を組むことができます。中国以外の交換留学生は毎朝 9 時～12 時までの 3 時間、中国語の授業を受けます。週 15 時間の授業の成果は伊達ではなく、日々聞き取れる単語の数が増えたり、言いたいことが少しずつ表現できるようになったりと中国語力の向上を実感します。午後は日本語学科の授業を選択しました。日本語学科の学生は非常にレベルが高く、3、4 年生は日本人の先生の下で、全て日本語で授業を受けます。歴史の授業では、日本では触れることのできないような歴史や政治を学べ、この授業を受けるだけで台湾に留学してよかった、と思えるものです。実際台中で生活をして感じたのが、事前にネットで得た情報ほど親日感は前面に感じない、ということです。台北や高雄のような都会ではないからかもしれませんが、大学の日本語学科の学生以外で日本語を喋れる人は見たことがありません。またスーパー、コンビニ、薬局に夜市等々、毎日日本語を見ない日はありませんが、これは日本語を使うと商品に信頼性が生まれ、売り上げがアップするためだと思います。商品名、商品説明全てに日本語を使い、あたかも日本製であるように見える商品がありますが、たいてい文法が怪しかったり繁体字を使ったりしています。味があり見ていて楽しいものです。品質は普通に良いです。非常に有意義な留学です。まだまだ台湾について知れることは沢山あると思いますので、後期のレポートのために溜めておきます。鶏爪（鶏の足）美味しいですが、爪が喉に突き刺さるため食べる際には注意を。休日は出かけるようにしています。



夜一のとある店の店内。



東海大学のシンボル、路思義教堂。



黒い犬がどこにでもいます。